

代表質問・一般質問の要旨 (令和8年9月定例会)

【代表質問】

	議員名	所属会派	質問形式	登壇予定日
1	小杉 悦子	日本共産党議員団	一問一答	9月10日 (木)
2	廣瀬 昇	超党・市民ファースト議員団	4 分 割	
3	上羽 和幸	公明党議員団	一問一答	
4	谷川 眞司	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
5	山本 治兵衛	新政クラブ議員団	一問一答	

【一般質問】

	議員名	所属会派	質問形式	登壇予定日
1	南 正弘	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	9月11日 (金)
2	伊田 悦子	日本共産党議員団	一問一答	
3	西村 正之	超党・市民ファースト議員団	一 括	
4	松田 弘幸	公明党議員団	一問一答	
5	田畑 篤子	新政クラブ議員団	一問一答	
6	上野 修身	自民党鶴政クラブ議員団	一 括	
7	小西 洋一	日本共産党議員団	一問一答	
8	仲井 玲子	超党・市民ファースト議員団	2 分 割	
9	杉島 久敏	公明党議員団	一問一答	
10	今西 克己	新政クラブ議員団	一問一答	9月14日 (月)
11	水嶋 一明	自民党鶴政クラブ議員団	一 括	
12	福本 明日香	超党・市民ファースト議員団	一問一答	
13	小谷 繁雄	公明党議員団	一問一答	
14	眞下 弘明	新政クラブ議員団	一問一答	
15	川口 孝文	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
16	高橋 秀策	超党・市民ファースト議員団	2 分 割	
17	野瀬 貴則	新政クラブ議員団	一問一答	
18	尾関 善之	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
19	眞下 隆史	新政クラブ議員団	一問一答	

【代表質問】

1 小杉 悦子 議員（日本共産党議員団）〔一問一答〕

1 海上自衛隊舞鶴基地拡大と舞鶴の平和のまちづくりについて

平成元年の議会決議・防衛省と舞鶴市の「覚書」を反故にする、防衛省の基地拡大の申し入れと、それを容認する鴨田市長の姿勢は、過去の歴史の教訓から「平和なまち舞鶴」を願う市民に背けるもの。国は時期を同じくして京都舞鶴港を「特定利用空港・港湾」選定候補に。舞鶴の危険度が高まることについて問う。



2 安心できる地域医療について

公的4病院の再編統合の協議の内容は、市民に何も知らされないまま。病院の経営は、医師不足、看護師不足で窮迫しており、市民の不安や心配する声を聞く。医療費削減を狙いに国は「新たな地域医療構想」の具体化を地域や病院にも迫っている。安心できる地域医療確保のため市の公的責任の発揮を問う。

3 コメ生産農家を支える施策について

一昨年から米不足、米価の高騰の事態を招き、昨年の59万トンの時期を逸した備蓄米放出。国は備蓄米の買い戻しも、25年度産米も買い入れず、26年産米の価格の下落の現状。いずれも国の農政の失政が要因。さらに政府は米の生産は農家任せ、市場任せにする米政策から、本市の米づくり農家を支援する施策を問う。

2 廣瀬 昇 議員（超党・市民ファースト議員団）〔4分割〕

1 地域医療の再構築について

本市の公的4病院再編に向けた「重点支援区域」指定を評価する一方、非公開協議の長期化による市民の不安を懸念し、指定への期待と今後の取組予定を問う。また、加佐診療所で開始した府内初のオンライン巡回診療「メディくるん」の運用状況と今後の展望、システムを担う総合診療医確保について市長の見解を問う。



2 教育環境の再構築と若年層の還流施策について

人口減少下における教育環境の再構築と若年層の還流に向け、海士町の事例を踏まえ提言。①多様な地域資源を連携させ、地域全体で子どもを育み郷土愛を醸成する教育環境の構築、②「大人の島留学」をモデルに、若者が地域課題解決に参画し担い手となる関係人口創出の仕組みの導入について、推進体制も含め市長の見解を問う。

3 新たな防衛施設整備に係る市の対応方針について

防衛省による浜・東山地区での新施設整備申し入れに対し、長年の課題であった跡地活用の代替措置や、防衛体制拡充による地域活性化の期待、工事の安全対策と情報提供への要望を提起する。覚書に基づく過去の成果と今後の国との協議・引き出しに関する市長の判断や見解、市民への説明を求めて問う。

4 来年2月に行われる市長選挙への市長の思いについて

医療や教育、防衛等の難題に向き合った鴨田市長の4年間の市政運営を評価し、来年2月の市長選に向けた決意を問う。これまでの総括と市民の審判を仰ぐ意義を問うとともに、人口減少等の山積する課題に対し、次の4年間に懸ける使命感と舞鶴の未来像について、次代を切り拓く力強い覚悟を自身の言葉で示すよう求めて問う。

3 上羽 和幸 議員（公明党議員団） [一問一答]

- 1 頻発する大規模災害に対する舞鶴市の防災減災対策について
各地で立て続けに大規模災害が発生しており、舞鶴市に同程度の災害が起きる危険もある。そこで、防災への備えや課題について問う。まず、都市部に生じた内水氾濫、次に、大規模災害に対する避難所の環境と設備、最後に、高齢者や体の不自由な人などが、避難所に行かず自宅に残る「在宅被災者」の支援について問う。
- 2 舞鶴市立中央図書館新設工事にかかる入札の取止めについて
こうした事態に至った経過と今後の対応について問う。



4 谷川 眞司 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

- 1 海上自衛隊舞鶴地区の施設整備に伴う歴史的資産を生かしたまちづくりについて
海上自衛隊舞鶴地区の施設整備に伴い、東山・浜地区や北吸三角地などに残る旧海軍施設、赤れんが倉庫、旧防空指揮所、鉄道軌道等の歴史的資産について、市の認識と今後の活用方針を問う。併せて、北吸三角地や周辺国有地の取得状況、防衛省の民生安定事業による支援の具体化について、市の考えを問う。
- 2 財政健全化について
兵庫県の財政状況を踏まえ、舞鶴市の財政健全性について、市債残高・基金残高や実質公債費比率、将来負担比率などの推移と現状を問う。併せて、人口減少・少子高齢化や大型投資が進む中、今後の金利上昇が市債の返済・利払いなど財政運営に与える影響と、将来にわたり健全な財政を維持するための考えを問う。
- 3 循環型社会の構築に向けた取組について
舞鶴市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しを踏まえ、ごみ減量・資源化の成果と課題を検証し、今後の施策強化を図るべきである。特に、地域の集積所管理の負担軽減や不適正排出の防止、排出者の責任意識の向上、リチウムイオン電池等の安全対策を進め、市民・地域・事業者が連携した3Rの推進と持続可能なごみ処理体制の構築が必要と考えるが、市の考えを問う。
- 4 舞鶴市の公的4病院の再編・統合について
舞鶴市の公的4病院の再編・統合について、各病院の運営主体・本部との協議状況と、国の「重点支援区域」選定によって受けられる財政・技術的支援の内容を問う。特に、地域医療介護総合確保基金の対象事業や「優先配分」の仕組み、基金の活用可能性、今後見込まれる国費等の支援規模と市の財政負担について、市の考えを問う。



5 山本 治兵衛 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 令和7年度の一般会計決算に対する評価について

令和7年度の各会計決算が今定例会に上程されている。予算と決算の関係は黒字額が多ければ多いほど良いというものではないと考えるが、財務指標も含めた各決算における市長の考え方を問う。



2 海上自衛隊舞鶴地区（浜・東山地区）における施設整備に関する事項について

安全保障環境が厳しくなるなか、浜・東山地区における新たな防衛施設整備と同地区の継続使用について申し入れがあった。しかしながら、今日まで防衛省と舞鶴市が交わした覚書においては、基地集約についての確認が過去にはあったが、対応について市長の考えを問う。

3 図書館整備について

図書館の建設が予算化され、いよいよ図書館整備も佳境を迎えている現状であるが、中央図書館を核としたネットワークの形成は構築していかななくてはならない。今後の建設スケジュールも含めて、市長の考えと現状認識を問う。

4 地域医療について

地域医療の再編は市民の安全・安心のまちづくりで核となる部分であるが、再編の進捗状況は市民になかなか見えてきていない。改めて、再編への現状認識や医師、看護師の確保状況、国や府の動向も含めて、市長と考えを問う。

5 防災・減災への対応と考え方について

現在の舞鶴市は、治水や高潮対策に大きな課題を持っていると考えているが、現在の高野川整備や静溪ポンプ場の今後はどのような状況なのか。今後の計画も含めて市長の考えを問う。

6 新幹線誘致について

北陸新幹線のルートが小浜－桂川案で決定された。促進会議は活動が終わったが、その完結について市長はどのように取りまとめているのか。また、今後の新幹線誘致はどのように考えていくのか問う。

7 地域クラブ活動の推進について

中学校の休日部活動が今二学期から開始された。現在、保護者の方からは不安や戸惑いの声も多くある。開始された現在において把握されている課題や今後の理想像について、市長の見解を問う。

【一般質問】

1 南 正弘 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

- 1 医療センター前の桜並木について
日常的な見守り、桜の木の倒木、今後の対応について現在そして将来に渡っての本市の対応を問う。
- 2 防災について
本市の備蓄物資の充足、増加、トイレトレーラーの導入、地震委員会の発表について、市の対応を問う。



2 伊田 悦子 議員（日本共産党議員団） [一問一答]

- 1 高齢者に優しい施策について
本市の高齢者福祉計画にそった高齢者に寄り添った施策の展開が求められている。具体的には、高齢者移動手段の制度設計の見直し、加齢性難聴者への補聴器購入補助の創設を求める。これについて市の見解を問う。
- 2 教育支援センターについて
本市の深刻な不登校の状況を考える上において、教育支援センターの役割や、教育委員会と民間のフリースクールとの連携が重要。その実態は。また、教育支援センターが中総合会館に移転の計画があるが、当該場所が最適なのか疑問を持つ。移転先に決まった経緯を問う。
- 3 学校へのエアコン設置について
この間の異常気象による災害を考えると、一日も早い、学校体育館への設置はもちろん、特別教室へもエアコン設置を求める。学校以外の公共施設には全室エアコンが設置されているが、教育という公共施設の全室にエアコン設置されていないことは「安上がりの教育」との指摘もやむを得ない。市の見解を問う。
- 4 舞鶴市総合文化会館の運用について
舞鶴市総合文化会館運営方針策定業務を委託したが、そのことで市民サービスがどのようになっていくのか心配される。幅広く利用者の声を聞き、文化の発信拠点となる運用を望む。今後の運営方針の考え方についての市の見解を問う。



3 西村 正之 議員（超党・市民ファースト議員団） [一括]

- ・ 新幹線誘致について
市として北陸新幹線誘致の取組についての総括はどのように考えているのか、また、北陸新幹線ルートについて一定の方向性が示された中、山陰新幹線誘致に向けた今後の取組について、その見解を問う。



4 松田 弘幸 議員（公明党議員団） [一問一答]

- ペットボトル飲料中のナノプラスチック問題を踏まえた、学校・公共施設への冷水機等の設置について
ペットボトル飲料から多数の微小なプラスチック粒子が検出された研究結果や、今後の健康影響に関する研究状況を踏まえ、ペットボトルに過度に依存しない飲水環境の整備が求められている。熱中症対策、マイボトルの利用促進、プラスチックごみ削減及び災害時の給水拠点確保の観点から、市役所、小・中学校及び市管理施設への衛生的な冷水機・給水機の導入について、市の考えを問う。



5 田畑 篤子 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

- 高齢者外出支援について
高齢者外出支援事業は、高齢者の外出を支える重要な制度である。高齢者にとって外出は、日々の生活を維持するために欠かせない。しかし、現行制度では、使用しにくく市民からの要望書が提出された。市の現状の課題把握と、近距離・長距離を問わず、高齢者が必要な時に利用しやすい制度の改正に向けての方向性を問う。
- 子育て支援について
現在の本市の医療的ケア児に関する現状と課題、医療機関との連携について、家族へのケアが届いているか。家族が、安心して子供を生み、育てることができる環境を提供できているかなど、元気な子供たちにとっては多くの支援ができたが、医療的ケア児とその家族への「希望のもてる未来」について、市の考えを問う。
- 市民病院について
今まで、舞鶴医療の一翼を担う医療機関として慢性期の質の高い医療・看護と職員の教育・指導体制を問うてきた。そこで、終末期や認知症ケア等への取組、訪問看護の開始等の成果と収益等を問う。また、医療再編に関して、西舞鶴は、慢性期医療が中心となる計画だが、市民病医院の今後の予算確保を含めた将来的な計画を問う。



6 上野 修身 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一括]

- 近年多発する自然災害への対応について
近年、全国各地で地震、豪雨、台風などの自然災害が激甚化、頻発化しており、命と暮らしを守るため公的な対策に加え一人ひとりの備えが大切である。本市においても、市民の生命と財産を守るため、これまで以上に災害を未然に防ぐ備え、実効性ある防災・減災の取組を不断に見直すことが重要である。近年多発する自然災害に対する本市の認識と備え、さらに今後の課題と、対応の方向性を問う。



7 小西 洋一 議員（日本共産党議員団） [一問一答]

1 北陸新幹線誘致活動の総括について

本年2月から舞鶴市、市議会、商工会議所の三者を中心に取り組み、きた北陸新幹線の「舞鶴ルート」への誘致活動。7月15日に与党整備員会が「小浜・京都ルート（桂川案）」に決定したことで「活動停止」した。総額340万円の予算で、多くの市民や自治体と一緒に組み込まれてきた誘致活動について、市としての評価を問う。



2 物価高騰から暮らしと営業を守る施策について

物価高騰が止まらない。長く続く円高と中東情勢の不安定化で資材不足、資材高も深刻で、市民の暮らしと営業に大きな影響を及ぼしている。水道基本料金の無料化や事業所への給付事業など3月定例会で事業化された「物価高騰対策事業」の中間的な実績と評価について問うとともに、企業誘致や賃金引上げの課題を問う。

3 災害に強い本市のまちづくりについて

大雨に酷暑、地震など災害が相次いだ今年の夏。防災が新たな局面を迎えていることは、「災害列島」と言われる日本に暮らす人々の実感ではないか。本市の避難物資の備蓄状況はどうか。避難所の体育館にエアコンは。など、市民のみなさんからの問い合わせも多い。防災・減災の公共事業など災害に強いまちづくりについて問う。

8 仲井 玲子 議員（超党・市民ファースト議員団） [2分割]

1 大規模災害に備える地域防災・受援体制及び避難所運営について

近年の甚大災害を教訓に、地域の現場力向上と備えの強化を提起。当て職出しがちな自主防災組織の機能強化や防災士の活用策、孤立想定地での衛星通信・ドローン運用を含む多重的な広域受援・物流体制の構築について問う。さらに、災害関連死を防ぐための避難所におけるペット同行避難の具体的運用や環境整備について市の見解を問う。



2 公民館における第2第3の居場所の創出について

公民館の機能への期待が全国的に変化している中、本市での公民館の役割認識を問う。どのコミュニティにも属さず孤立しがちな人が増える中、多世代が集い交流できる居心地の良い日常の居場所（サードプレイス）への機能転換と空間づくり、新たな関係創出について見解を問う。

3 地域課題を解決するファシリテーター「社会教育士」の意義と本市における積極的活用について

社会教育士の持つ力をもっと積極的に活用すべきと考える。庁内においては培ったノウハウを各部署へ横展開し、職員の対話力向上や建設的な意見交換に活かすこと。また、市民との関係においては「まちの役に立ちたい」思いを受け止め、対話を進める場づくりの牽引役として期待する。これら2つの視点について市の見解を問う。

9 杉島 久敏 議員（公明党議員団） [一問一答]

1 校外移動時における児童生徒の安全確保と充実化について

校外移動時の安全確保に関し、『学校任せ』の判断基準の明確化と安全管理基準体制及び判断基準、移動手段の違いによる安全対策について国が定める契約の運用、各小中学校の危機管理マニュアルの内容と見直しについて問う。



2 医療的ケア児支援法の改正を踏まえた切れ目のない地域支援体制の構築と地域格差の是正について

18歳以降の成人期までを見通した切れ目のない地域支援体制の現状、『18歳の壁』を打開する成人期以降の支援（医療・就労・住居・生涯学習）の推進、地域格差を埋める医療的ケア児等支援センターとの連携などの具体策、ケア負担解消に向けた家族支援の拡充を問う。

10 今西 克己 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 由良川の塩水遡上が農業等に及ぼす影響について

由良川下流部においては、塩水の遡上が見られる。農作物、主として水稻の栽培に要する水を由良川本川からポンプアップして利水してきた。近年では、地球温暖化のもたらす海水面の上昇や降水量の変化等によって塩水の遡上が進み、揚水の場所によっては、塩分濃度も濃くなり取水制限を余儀なくされ、利水に大きな影響が出ている。本市の対応を問う。



2 由良川の塩水遡上に伴う取水施設移転計画について

由良川本川の塩水遡上の現状は、有路補助取水場をはるかに超えて上流まで遡上していると思われる。本市では、由良川水源の安定的な確保と水質維持のために令和4年から取水口の上流移転を見据えた調査・設計と関係機関との協議を行っていただいている。取水施設の移転計画について問う。

3 緊急銃猟について

人の日常の生活圏にツキノワグマ等の危険鳥獣が侵入した場合に緊急銃猟が行われる。発生現場の状況にもよるが、ハンターが使用する銃はライフル銃、散弾銃等が考えられるが、対象までの距離、障害物の有無、跳弾等の危険性等安全確保が可能な状況下であれば、散弾銃でスラッグ弾を使用をすることが効果的と考えるが市の考えを問う。

11 水嶋 一明 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一括]

1 市道宮下谷口線などの道路整備事業の進捗状況について

この度実施されている道路整備事業全体の範囲を確認。次に、この度の道路工事に併せて進められている公文名交番の移転目的と進捗状況、クラブ活動に励む生徒達の事故防止に向けた、工事中の具体的な安全対策の取組、事業完了まで遠いが、今後の具体的な安全対策の取組の予定について問う。



2 国道27号西舞鶴道路及び引土境谷線工事の進捗状況について

平成19年度から国が渋滞の緩和などを目的に進められている事業であり、本市の発展にとっても早期完成を心待ちにされている国道27号西舞鶴道路の進捗状況と、市道引土境谷線の現時点での進捗状況についても問う。

12 福本 明日香 議員（超党・市民ファースト議員団） [一問一答]

1 学校教育について

本市のインクルーシブな学校運営モデル事業の総括と、終了後の他校への展開、副籍制度の検討状況について市の見解を問う。また、減少傾向が見られない不登校児童生徒の現状に対する教育委員会の認識をただし、フリースクール等の民間施設との連携状況や、多様な学びの選択肢が限られる小中学校における今後の対応方針について問う。



2 障害者の生活水準向上と孤立を防ぐ地域支援について

障害者の生活困窮と保護者の就労負担に関する市の現状認識を問う。賃金向上のため、入札加点や発注奨励金、農福・商福連携など市独自のインセンティブ制度を提案し、本市ならではの主体的な具体策を求める。また、地域の善意のみに依存しない公的なセーフティネットの構築と、生きがいを持って安心して暮らせる生活支援のあり方を問う。

3 舞鶴市の魅力発信戦略と、特産品を活かしたアプローチについて

本市の魅力発信戦略の現状を問う。特にお茶や和菓子など特産品プロモーションの課題をただし、単発の「点のPR」からの脱却を求める。大規模イベント出展に挑む地元事業者への実効性ある伴走支援のほか、職人の技や伝統といった「体験型の付加価値」を核とした戦略的な魅力発信のビジョンについて市の見解を問う。

13 小谷 繁雄 議員（公明党議員団） [一問一答]

1 西市街地の浸水対策と雨水管理総合計画について

西市街地の浸水対策では、高野川の未整備区間、静溪川ポンプ場建設停止、伊佐津川の難工事など課題が残り、住民の不安が続いている。河川改修工事の進捗状況、雨水管理総合計画の調査状況、重点排水区を選定する際の判断基準をどのように整理しているのか、さらに静溪ポンプ場の今後の見通しについて、本市の見解を問う。



2 重層的支援体制整備事業について

本市は重層的支援体制のもと、相談支援に加えアウトリーチで孤立した人を把握し、参加支援で地域とのつながりなど、回復する取組を進めてきた。こうした実践で見えた課題や潜在ニーズ、支援員体制の強化、新たな社会資源の創出、関係機関連携の状況を踏まえ、今後どのように支援を進めていくのか、本市の取組を問う。

14 眞下 弘明 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 舞鶴市が取得する三角地のまちづくり構想について

舞鶴市が取得する三角地について、赤れんがパークの西側エントランスとしての大型車受入や広場等の整備方針を問うとともに、退役後、本庁裏に停泊している掃海艇「すがしま」を同地へ陸上展示し、平和の発信や観光振興に活かすべく、防衛省等と協議する意向があるかを問う。



2 8月27日の大雨警報時の対応について

8月27日深夜の大雨警報発表時における舞鶴市内の実際の被害状況（床上・床下浸水や道路冠水など）を問うとともに、過去の教訓を踏まえ、大手ポンプ場が稼働していたのかを問う。

15 川口 孝文 議員（自民党鶴政クラブ議員団）〔一問一答〕

1 小・中学校の水泳授業について

昨年の中学生以下の水難事故は110件・117人であり、うち、死者・行方不明者は27人となっている。スポーツ庁は、水泳授業を通じて身を守る方法や知識を身に付けることは、水難事故防止にも繋がるのが期待される。としている。そこで、本市の小・中学校の水泳授業の現状、今後の方向性等について問う。



2 災害用備蓄物資について

地震や台風、豪雨災害等が頻発しており、各地で避難生活を余儀なくされている方々も多い。本市でも、このような状況が生起する可能性は否定できない。万が一市民が避難所で生活せざるを得なくなった時、避難所を支えるものが災害用備蓄物資である。そこで、本市の災害備蓄物資の内容や保管場所、見直し体制等を問う。

16 高橋 秀策 議員（超党・市民ファースト議員団）〔2分括〕

1 舞鶴引揚記念館における「学生語り部」の活動について

学生語り部の活動を全国へ発信することは、舞鶴の歴史的価値と平和への強い意志を世界に示す「舞鶴ブランド」の確立・向上にも大きく寄与すると確信する。そこで、「学生語り部」養成の経過とこれまでの活動実績、ウズベキスタン共和国・キルギス共和国への訪問の成果、戦後100年に向けた今後の活動方針について問う。



2 地域建設業の持続可能性と担い手確保について

地元建設業の現在の登録者数、技術者数、従事職員数のほか、週休2日制ができて2年近くなるが、実施状況はどのようになっているのか、週休2日制を前提とした工期が確保されているのか、また、人件費や機器のレンタル料など経費増に対応した工事価格になっているのか、施工時期の平準化についてはどのようにしているのか、さらには、地元建設業を守る今後の発注制度についての考えを問う。

3 市道男子校下通線（通称 茜峠）について

現在の整備状況並びに今後の整備について問う。また、茜峠と小学校校庭の間の空間は、より安全な通学路にと希望する。現状を把握していただいて、より良い整備ができないか問う。

4 夢講演会について

舞鶴市の夢講演会の実施状況について、昨年度はどのような方に、どのような講演をしていただき、生徒からの感想はどのようなものがあったのか、また、今年度の取組の予定について問う。

5 赤れんがパーク・市役所前バス停について

市役所前バス停の屋根設置については、昨年12月定例会において「屋根付き休憩所の設置に向け、具体的な検討を進めているところ」と答弁があったが、いつ頃どのような休憩所になるのか問う。

17 野瀬 貴則 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 デジタル教科書の活用と学習環境の整備について

デジタル教科書正式導入に伴う効果や課題、各種学習支援アプリ等の運用方針を問う。さらに、置き勉強による家庭学習への支障を解消し、学習環境を適切に整備するため、国語や算数等の主要科目における紙とデジタルのハイブリッド方式での運用導入を含めた、本市の今後の取り組みと方針について問う。



2 豪雨災害における道路冠水対策と車両水没事故の防止について

千葉豪雨を踏まえた本市の被害想定やアンダーパス等の進入防止策、走行車両等への即時情報伝達体制を問う。また、脱出用ハンマーの周知強化や補助制度、公用車配備状況を確認するとともに、民間駐車場等を活用した車両緊急退避場所の拡大推進など、総合的な水没事故防止対策に関する本市の方針について問う。

3 共生型MaaSの推進と持続可能な制度設計について

ラストワンマイル交通の重要性認識や共生型MaaS「meemo」に対する評価と将来ビジョンを問う。さらに運賃改定に伴う利用者の負担増を抑えるための高齢者外出支援事業の適用や、持続可能性を高める事業委託型への転換など、地域の移動手段を将来にわたり維持・発展させる本市の制度設計について問う。

18 尾関 善之 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 教育の観点から見たタブレット・スマホについて

近年、タブレット・スマホは、子供たちにとって連絡や情報収集の手段として大変身近なものとなっている。便利である一方で、長時間利用による生活リズムの乱れ、睡眠不足、学習への集中力の低下など、様々な課題が指摘されている。

そこで、タブレット・スマホが児童生徒の心身、生活習慣、学習環境に与える影響について、教育委員会の認識を問う。



2 土木工事の設計単価について

舞鶴市は、「土木工事の設計単価の公表は入札の本来の意義を失いかねない危険な行為、過去の増収派事件、個人情報等を踏まえた必要不可欠な再発防止策」として非公表としてきた昨年12月定例会の答弁が、一転して土木工事における予定価格の算定に使用する見積設計単価等について突然公表となった経緯について市の認識を問う。

19 眞下 隆史 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 学校規模適正化推進事業について

市は、昨年度に「舞鶴市学校規模適正化ビジョン」を定め、本年度から主に小規模校を中心に学校単位で説明会を実施されている。先般、毎年実施される「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書」が提出された。拝見すると、「学校規模適正化推進事業」について低評価が示されているが、その要因を問う。



2 公共交通の自動運転化について

市民生活に欠かせない交通手段は様々な方法がある中、公共交通を利用する方は減少して経営を圧迫し、近年は「市民の足の確保が重要」として、補助や支援を実施しているが、新たに運転手の確保に苦難している現状である。それでも抜本的な対策は見つからないのが現状だが、期待される未来に向けた自動運転化は可能か問う。

3 人材不足に対する補助の考え方について

人口減少・少子高齢化を解消する抜本的な解決策は難しいのが現状である。その影響は、あらゆる職種の人材不足へと発展し、今後もさらに増えていく事が予想される中、市が支援や補助をする基準を確認するとともに、将来的に補助の在り方をどのようにしていくことがベストか、市民が納得できるような支援策の考え方を問う。